

有機 JAS 適合肥料を用いたフェネル栽培の実証 (川内村)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付実証

研究課題名 有機栽培に向けたフェネル栽培の実証 (川内村)

担当者 吉田雅貴、小椋智文

I 新技術の解説

1 要旨

川内村では西洋野菜の栽培が行われており、付加価値向上を目指した栽培が求められている。そこで、有機 JAS 適合肥料を用いてフェネルを栽培したところ、慣行栽培（化学肥料区）と比べて、初期生育が遅れるものの、収量は同等であった。

- (1) 4月8日に播種、5月18日に定植を行ったところ、7月26日に収穫できた。
- (2) 本圃の施肥窒素分量は10aあたり15kgとし、有機質肥料区では「有機アグレット 666」及び「収多くん」を、化学肥料区では「野菜専用 NN444」及び「なたね油かす」を使用した。
- (3) 草丈では化学肥料区が有機質肥料区に比べ大きいものの、収穫時の茎径、重量は両区同等となった（表2）。
- (4) 両区でネキリムシ類及び腐敗による欠株が見られたものの、10aあたり換算単収は同等であった（表3）。

2 期待される効果

- (1) 川内村における西洋野菜の生産振興に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 病害虫防除の際は、「野菜」又は「フローレンスフェネル」に適用のある農薬を選び、登録内容に従って使用すること。なお、本試験では両区において、脂肪酸グリセリド剤（サンクリスタル乳剤）1回、BT菌生芽胞及び産生結晶毒素剤（エスマルク DF）1回を使用した。
- (2) 定植から収穫までの日数は栽培環境により変動する。また、収穫遅れにより抽だいや腐敗株が発生するため、適期収穫に留意する。

II 具体的データ等

表1 フェネルの栽培歴

区	3	4	5	6	7	8
有機質肥料区・化学肥料区		播種		定植		収穫

表2 生育及び収穫物調査

	苗5/11	草丈調査(cm)		収穫物調査	
		本ぼ6/18	本ぼ7/18	茎径(mm)	重量(g/個)
有機質肥料区	9.0±1.1	34.2±4.2	78.8±7.6	53.32±9.09	287±99
化学肥料区	12.3±1.4	40.5±5.7	82.2±7.7	55.69±9.24	303±98

※ 収穫物調査は、調製後に可販果を測定した(図)。

表3 欠株率、可販果率及び換算単収

	欠株率(%)	可販果率(%)	換算単収(kg/10a)
有機質肥料区	17	96	697
化学肥料区	13	85	675

※ 欠株は本ぼで収穫に至らなかったもので、原因はネキリムシ類及び腐敗であった。

※ 収穫後廃棄となった原因は、内部腐敗であった。

※ 欠株率は各調査区30株あたり、可販果率は各区収穫物(有機区25株、化学区26株)あたり。

※ 換算単収は各調査区の収量を面積で割り返したもので、欠株率や可販果率の影響を含む。

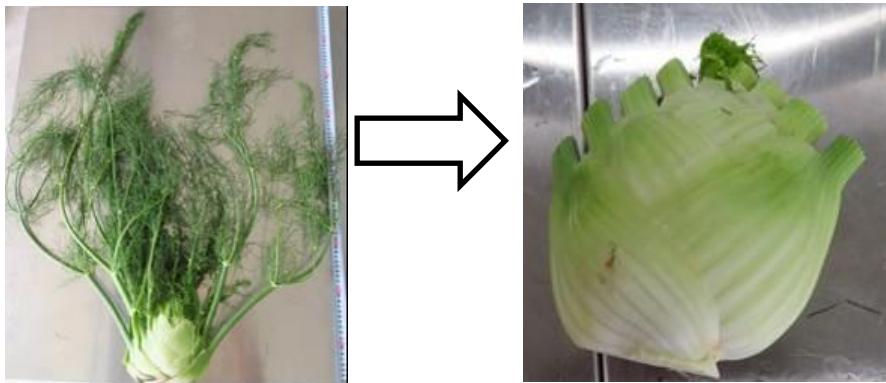


図 収穫物の調製

III その他

1 執筆者

吉田雅貴

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

(1)根本知明, 夏どり西洋野菜の栽培実証(川内村), 平成30年福島県農業総合センター営農再開実証技術情報